



## 認可変更 REST API の使用方法

認可変更 (CoA) コールは、ターゲット モニタリング ノードの指定されたセッションにコマンドを送信して次を実行します。

- セッション再認証 (Reauth API コールを使用)
- セッション切断 (Disconnect API コールを使用)。

次の項では、CoA API の各タイプを説明するほか、スキーマ ファイルの例、各コール発行の手順、および返されるデータのサンプルについて説明します。

- 「[Reauth API コールの使用方法](#)」 (P.4-1)
- 「[Disconnect API コールの使用方法](#)」 (P.4-2)

### Reauth API コールの使用方法

Reauth API コールは、指定されたセッションに再認証コマンドを送信します。各セッションは、関連づけられている値があり、次のいずれかになります。

- 0 : REAUTH\_TYPE\_DEFAULT
- 1 : REAUTH\_TYPE\_LAST
- 2 : REAUTH\_TYPE\_RERUN

### Reauth API コールのスキーマ ファイル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<xs:schema version="1.0" xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
  <xs:element name="remoteCoA" type="coAResult"/>
<xs:complexType name="coAResult">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="results" type="xs:boolean" minOccurs="0"/>
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="requestType" type="xs:string"/>
</xs:complexType>
</xs:schema>
```

### Reauth API コールの呼び出し



(注) ターゲット ノードが、有効なモニタリング ノードであることを確認している必要があります。ノードのペルソナを確認するには、「[モニタリング ノードの確認](#)」 (P.1-2) を参照してください。

**ステップ 1** ターゲット モニタリング ノードにログインします。

たとえば、ホスト名が `acme123` のモニタリング ノードに最初にログインすると、次の URL アドレス フィールドが表示されます。

```
https://acme123/admin/LoginAction.do#pageId=com_cisco_xmp_web_page_tmpdash
```

**ステップ 2** 「/admin/」 コンポーネントを API コールのコンポーネント  
(/ise/mnt/CoA/<specific-api-call>/<macaddress>/

<reauthtype>/<nasipaddress>/<destinationipaddress>) に置き換えて、ターゲット ノードの URL アドレス フィールドに Reauth API コールを入力します。

```
https://acme123/ise/mnt/CoA/Reauth/server12/00:26:82:7B:D2:51/2/10.10.10.10
```



**(注)** コールは、大文字小文字を区別するため、ターゲット ノードの URL アドレス フィールドに慎重に各 API コールを入力する必要があります。API コール規則での「mnt」の使用は、モニタリング ノードを表します。

**ステップ 3** Enter キーを押して API コールを発行します。

## Reauth API コール データ

Reauth API コールは次のいずれかの結果を返します。

- 「True」はコマンドが正常に実行されたことを示します。
- 「False」はコマンドが実行されなかったことを意味します。

This XML file does not appear to have any style information associated with it. The document tree is shown below.

```
-
<remoteCoA requestType="reauth">
<results>>true</results>
</remoteCoA>
```

## Disconnect API コールの使用方法

Disconnect API コールは、指定されたセッションに切断コマンドを送信します。各ポートは、関連づけられている値があり、次のいずれかになります。

- 0 : DYNAMIC\_AUTHZ\_PORT\_DEFAULT
- 1 : DYNAMIC\_AUTHZ\_PORT\_BOUNCE
- 2 : DYNAMIC\_AUTHZ\_PORT\_SHUTDOWN

## Disconnect API コールのスキーマ ファイル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<xs:schema version="1.0" xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">

  <xs:element name="remoteCoA" type="coAResult"/>

  <xs:complexType name="coAResult">
    <xs:sequence>
```

```

    <xs:element name="results" type="xs:boolean" minOccurs="0"/>
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="requestType" type="xs:string"/>
</xs:complexType>
</xs:schema>

```

## Disconnect API コールの呼び出し



**(注)** API コールを発行するターゲット ノードが、有効なモニタリング ノードであることを確認します。ノードのペルソナを確認するには、「[モニタリング ノードの確認](#)」(P.1-2)を参照してください。

**ステップ 1** ターゲット モニタリング ノードにログインします。  
たとえば、ホスト名が `acme123` のモニタリング ノードに最初にログインすると、次の URL アドレス フィールドが表示されます。

```
https://acme123/admin/LoginAction.do#pageId=com_cisco_xmp_web_page_tmpdash
```

**ステップ 2** 「/admin/」 コンポーネントを API コールのコンポーネント  
(/ise/mnt/CoA/<Disconnect>/<serverhostname>/  
<macaddress>/<portoptiontype>/<nasipaddress>/<destinationipaddress>) に置き換えて、ターゲット ノードの URL アドレス フィールドに Disconnect API コールを入力します。

```
https://acme123/ise/mnt/CoA/Disconnect/server12/
00:26:82:7B:D2:51/2/10.10.10.10
```



**(注)** コールは、大文字小文字を区別するため、ターゲット ノードの URL アドレス フィールドに慎重に各 API コールを入力する必要があります。API コール規則での「mnt」の使用は、モニタリング ノードを表します。

**ステップ 3** Enter キーを押して API コールを発行します。

## Disconnect API コール データ

Disconnect API コールは次のいずれかの結果を返します。

- 「True」はコマンドが正常に実行されたことを示します。
- 「False」はコマンドが実行されなかったことを意味します。

This XML file does not appear to have any style information associated with it. The document tree is shown below.

```

-
<remoteCoA requestType="reauth">
<results>>true</results>
</remoteCoA>

```

